

講義番号	講義テーマ	講義概要	教員氏名	職名
1	「あなたもこうして誕生したのです」	人が誕生することは奇跡的なことです。今在る自分自身の命のすばらしさを感じてもらいたい。演者が経験してきた数々の出会いと別れから、「今、生きている自分の活かし方」をあらためて考える機会となることを目的にスライドを中心に講義します。	江南 宣子	教授
2	1. 疫学研究の紹介 2. 行動遺伝学研究の紹介	1. F・ナイチンゲールをはじめとした古典的な疫学研究を紹介を通して、現在の看護の基礎についてお話しします。 2. 病気や行動は遺伝と環境の影響をそれぞれに受けているがそれらの意味を行動遺伝学の知見をもとに紹介します。	乾 富士男	教授
3	言葉の花束交換	論理療法の考え方を使って、言葉をつくる演習をします。この言葉の花束交換の演習は、たいへん人気の演習のひとつです。落ち込み気味の気持ちを軽くしてさしあげる、チョットしたコツをお教えします。	上仲 久	教授
4	地域で行われる看護 「看護の原点！訪問看護の実際」	「訪問看護」という言葉を聞いたことがある人は増えましたが、どのようなことを行うの？と思っている方が多い現状です。病気や障がいがありながらも自宅で暮らす人々の「望む暮らし」は、これから長く続く療養生活を始める人から、すみなれた自宅での死を望む人までさまざまです。その望む暮らしに近づくための訪問看護の実際と「看護の原点」といわれる理由をお伝えします。	奥田 真紀子	教授
5	地域の看護は広がってきている！あなたはどんな看護がしたいですか？	今、地域で看護師の役割が変わってきています。病院以外で療養されている人を支えている看護職以外の専門職や制度から、病気にならないための看護職の活動についてお話します。	尾ノ井 美由紀	教授
6	いつでもどこでも簡単にできる「熱布バックケア」	熱布バックケアとは、背中に温かいタオルを当て、心地よさを提供するケアです。おなかの動きをよくする、入眠しやすくする、コリや痛みを和らげるなどの効果が期待できます。これにより、人間に備わっている「自然治癒力＝心身を自然に回復させる力」を高めることにつながります。タオル1本とコップ1杯の熱い湯さえあれば、誰でも、いつでも、どこでも行える簡単なケアの方法をお伝えします。	茂野 香おる	教授
7	歴史から学ぶ命の大切さ —公害問題から考える人々の健康と生活—	日本の近代化の中で公害によって健康や命を失った人々がいます。看護師は人々の健康を守る職業です。一緒に人々の健康と生活を守るとはどういうことを考えたいと思います。	鈴木 紀子	教授
8	看護ケアって何するの？～がんの痛みをもつ患者への看護を通して～	がんの患者さんが最も恐れる症状は「痛み」です。痛みをもつ患者さんへの看護ケアを通して、看護学はどのような学問なのか、チーム医療における看護師の役割とは何かについて学びます。看護職としてのキャリアデザインをイメージして頂きたいと思っています。	山中 政子	教授
9	脳卒中の予防と看護	出張講座では、看護師の臨床経験を交えて、脳卒中の知っておきたい症状や看護について説明します。また本学の学生生活についても説明します。	東 真理	准教授
10	子どもの権利を守る小児看護	医療現場でおこりやすい子どもの権利の侵害、子どもの最善の利益を目指した小児看護の役割について紹介します。子どもが主体となって取り組むための看護（プレパレーションなど）についても、実際の道具を紹介しながら説明します。	石橋 かず代	准教授
11	覗いてみよう国際看護	社会が抱える健康課題をグローバルな視点で捉え、看護が人々の生活や健康にどのようなアプローチで貢献できるのかを考える。異文化理解、留学や海外就職の道など看護職のキャリアデザインができるような説明をする。	高橋 里沙	准教授
12	①こどもの成長発達とコミュニケーション ②こどもの事故と対策	①こどもの成長と発達について説明します。実際に子どもの視界を体験しながら、子どもの認知（考えていること）について学び、コミュニケーション方法を考えます。 ②こどもの視界・からだの特徴についてお話します。子どもが誤って異物を飲み込んだときの対処方法について演習で体験できます。	徳島 佐由美	准教授
13	①生きている証しを確認しよう ②身体の上手な使い方～楽に動く・安定した姿勢～	①心臓の鼓動（心拍）や呼吸、お腹の音を聴診器で聞いてみる、脈拍や血圧、体温を測定して通して人が生きている証しを確認します。 ②看護では身体を上手に使う、少ないエネルギーで有効な活動ができる技術を学びます。これを「ボディメカニクス」を活用するといいます。重たいものをもつときのコツ、身体を安定させるときのコツなどを体験してみましょう	森嶋 道子	准教授
14	①社会人基礎力と看護	社会人基礎力は経済産業省が2006年に提唱しました。社会人基礎力は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」ですが、看護師にとってそれらの力とはどのような場面につながっているのか考えていきます	上野 妙子	講師
15	「その人らしさ、自分らしさって…」性的マイノリティの視点から考える	性的マイノリティ、性の多様性について脳科学的な情報を交えながら「その人らしく、自分らしく生きる力」を支えあうためには何が必要かを考えていきます。	上原 麻利	講師

講義 番号	講義テーマ	講義概要	教員氏名	職名
17	認知症の人の見え方	認知症について一緒に学びます。認知症とともに生きる人は、日ごろの風景をどのように見て、どのように感じているのでしょうか？認知症とともに生きる人自身が伝えてくださっていることを紹介します。そして、どのように対応したらいいのか？を一緒に考えてみたいと思います。	田中 真佐恵	講師
18	赤ちゃんの生活	赤ちゃんについて、体験（演習）を通して学びます。子宮（おなか）の中でどうやって育っていくのかや、生まれてまだ話せない赤ちゃんから発信されるサインを手がかりに、赤ちゃんからのメッセージを解釈してみましょう。	永田 阿子	講師
19	若年でも起こる？サルコペニア	サルコペニアとその要因について説明します。活動性が制限されたときに生じる日常生活の障害について、共に考えていきます。	福田 正造	講師
20	①生きている証を確認しよう ②身体の上手な使い方～楽に動く・安定した姿勢～	①心臓の鼓動（心拍）や呼吸、お腹の音を聴診器で聞いてみる、脈拍や血圧、体温を測定してみることを通して人が生きている証を確認します。 ②看護では身体を上手に使う、少ないエネルギーで有効な活動ができる技術を学びます。これを「ボディメカニクス」を活用するといえます。重たいものをもつときのコツ、身体を安定させるときのコツなどを体験してみましょう	横井 弓枝	講師
21	ジェンダーフリーってどういうことなんだろう・・・	生まれもった性別とジェンダーの意味の違いを踏まえて、一人一人が性差や規定概念によって苦しまずに生きられる社会になるために必要なことを、学生さんたち自身に考えてもらえるような事例等をあげて進めていきます。	幾嶋 祥子	助教
22	高齢者の方の“強み”や“その人らしさ”を発見してみよう！	看護学生と一緒にアクティビティケアに参加している写真や動画をを通して、高齢者の方の本来の“強み、そのひとらしさ”を伝えます。次に、実際に昔の遊び（折り紙、塗り絵、お手玉、おはじき、クイズなど）を体験し、楽しみながら、高齢者の方を理解してもらえればと思います。	伊藤 咲	助教
23	コミュニティーナース-病院ではない場所で働く看護師さん-	地域密着型の看護師さん、病院ではなく、街の中、山の中が働く場所です。地域の大人や子ども、みんなを大切に、健康を守っています。このような働き方をする看護師、コミュニティーナースの紹介と共に、看護についてご説明します。	梶谷 薫	助教
24	血管を守る『いきいき生活』とは？	認知症、脳卒中、心筋梗塞…動脈硬化の進行は生命に関わる危険な状態を招きます。しかし！生活習慣の改善により血管年齢の若返りは、可能なのです。血管を守るための生活の術（すべ）をお伝えします。	加藤 久代	助教
25	①生きている証を確認しよう ②身体の上手な使い方～楽に動く・安定した姿勢～	①心臓の鼓動（心拍）や呼吸、お腹の音を聴診器で聞いてみる、脈拍や血圧、体温を測定してみることを通して人が生きている証を確認します。 ②看護では身体を上手に使う、少ないエネルギーで有効な活動ができる技術を学びます。これを「ボディメカニクス」を活用するといえます。重たいものをもつときのコツ、身体を安定させるときのコツなどを体験してみましょう	佐上 裕子	助教
26	高齢者体験をしてみよう	『年齢を重ねるってどういうことだろう』実際に大学の授業でもされている演習内容を通して、年齢を重ねることで起こる体の変化や、生活への影響を考えてみましょう。	前川 理恵子	助教
27	大学で学ぶということ ～からだの不思議と看護学～	出張講座では、まず①大学で学ぶということ ②「呼吸」や「消化」など身近な体の機能についてメカニズムと症状に対する看護について事例を通して学ぶ	山田 忍	助教